

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年6月20日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「笑顔いっぱいの杉の子幼稚園」
「心身ともに調和の取れた発育・発達と健全な人間性の基盤をつくる」
「強く かしく たくましい 感性豊かな 思いやりのある子の育成」
望ましい子どもの姿「自分の力で、元気に、仲良く、もうひと頑張りする子」

2. 本年度重点目標・計画

園児募集に力点を置き、杉の子幼稚園に関わる全ての人が笑顔になる幼稚園をめざす。
・教育課程を見直し改善を図る…教育理念「つよく かしく たくましく」21世紀の国際化社会に羽ばたく子どもたちに情報処理能力を身に付けさせるため、幼児の実態に合わせた教育課程の編成にあたる。指導計画に基づいて保育を進め、振り返りや反省を行い次に生かしていく。
・教職員の資質向上（研修・情報共有等）…「子どもの《自分で・自分が・自分から》を大切にする」保育者としての専門性を高めるため、研修に積極的に参加する。公開保育を互いに見合い、子ども理解を深め指導力の向上に努める。
・特別支援教育のための園内支援体制を整備する（家庭との協力・連携も含む）…特別支援が必要な子どもを見逃さず、園全体で共通理解し、個に応じた関わりを心がける。
・安全管理体制の強化…新型コロナウイルス感染防止対策に努めるとともに、子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える。子どもの命を守るため、食物アレルギー対応給食提供のチェック体制を徹底する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	B	・新型コロナウイルス感染拡大を受け、緊急措置として幼稚園部閉鎖や学級閉鎖等、徹底した感染防止対策が求められる1年であった。厳しい状況の中でも、慌てることなく園児の健康を守り、子どもたちの主体的で対話的な深い学びを保障する教育課程の編成に当たってきた。 ・子どもたちの育ちにつながる体験活動を多く取り入れ、主体的に楽しんで取り組めるよう年間計画から月案・週案計画、そして日々の日案を具体的に立てている。また日々の保育の振り返りを行い次に生かせるようにしている。その結果、丁寧な保育ができた成果をあげることができた。
2	教職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	・今年もまた、研修会の多くが感染対策としてオンデマンドやズーム・ビデオ通話等を使用したオンライン研修会となった。園で保育の合間に参加できるメリットもあり、積極的に参加し、保育者の資質指導力の向上に努めた。 ・全クラスで公開保育を実施した。反省会では、子どもの名前を挙げ具体的に子どもの姿を語り合うことで、確かな振り返りができた。日々の教育・保育の反省や振り返りを通して、先生たちが互いに学び合うことができた。 ・子どもたちに質の高い教育を提供するとともに、様々な教育課題に適切に対応するため、話し合いの機会を十分持ち、互いの良さから学び、教職員の資質と実践的な指導力の向上を図った。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する(家庭との協力・連携も含む)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援が必要な子どもの状態や発達段階等に応じて、よりよい環境を整え、特別な配慮のもとに、今持っている力を精一杯発揮しながら、その能力を最大限に伸ばす保育・教育活動を行い、成果を上げることができた。 ・全教職員が子どもの特性や保護者の思い等の情報を共有し、適切な支援を実施することができた。 ・保護者のニーズを把握するために、個人面談や連絡帳でのやり取り、送迎時における会話などを大切にしてきた。また、必要に応じて専門機関と連携し個別の教育支援計画を作成、子どものつまずきに応じた支援を行うことができた。
4	安全管理体制の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園送迎バスの安全管理が大きな話題となった。子どもたちの命を100%保障するということが、私たち職員の最も大切な使命である。そのためには、どんな手間も惜しまずチェック体制を整える必要がある。本園でも「通園バス管理運行マニュアル」を見直し、徹底した事故防止対策に努めた。 ・幼稚園の施設・設備・遊具・用具等の安全点検を定期的実施し、日常の中に潜んでいる危険の洗い出しに努めている。気になることがあれば課題を共有し、直ちに対策改善につなげている。

評価の基準 (A:十分達成されている B:達成されている C:取組まれているが、成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切にされた質の高い教育・保育活動を実践することができたし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A:十分達成されている B:達成されている C:取組まれているが、成果が十分でない D:取り組みが不十分である)

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1 教育内容	<p>新型コロナウイルス感染が拡大したり落ち着いたりを繰り返しながら3年目を迎えた。これまで可能な限り感染防止対策を徹底しながらも、消極的にならず丁寧に一日一日を大切に過ごしてきた。これからも、コロナウイルスが身の回りにいることを前提として、新しい生活様式(ウイズコロナ)を実践していかなければならない。安心・安全な状態で毎日の教育・保育活動を継続・充実させ、子どもたちの健やかな成長を保障していくことが必要である。</p> <p>本園の研究テーマ「意欲いっぱいの子どもを育てる～友達や先生とのかかわりを通して～」を実践研究し、互いに刺激し合い自ら学び続ける保育者集団として、質の高い教育・保育を目指したい。「公開保育」を活用し、具体的な子どもの姿を通して保育の質向上や保育者の専門性の向上に努める。全教職員で全園児を育てていくという職場内の同僚性・協働性・信頼関係を更に高めたい。研修会で学んだことを互いに共有するとともに、各クラスで楽しかった保育の実践についても具体的に話し合い学びあう場を作っていきたい。</p> <p>特別支援教育の理解を深め、個別の配慮をしながら発達の支援をしていく。その為、療育福祉センターや高知市教育研究所等関係諸機関と連携し、専門家の見解やアドバイスを受け、一人一人の子どもの育ちを見据えた援助について職員全員で共通理解に努める。特に年長児は、小学校と連携し滑らかで確実な接続ができるようにする。また、保護者と信頼関係を築き、その思いに寄り添いながら必要な情報提供を行い、きめ細やかな援助を行っていききたい。</p> <p>近い将来必ず発生する南海トラフ地震に備え、様々な想定避難訓練を実施したり、災害時に予想される幼児の行動についても共通理解することが必要である。園庭に新しく大型遊具を設置した。遊具は、冒険や挑戦、社会的な遊びの機会を提供し、子どもたちの成長に欠かせないものだが、冒険や挑戦には危険性も内在している。子どもたちが遊具遊びで高さ感覚や逆さ感覚を身に付け、危険回避能力を高められるように、保育者が見守り指導する必要がある。保育のいろんな場面で教職員は常にアンテナを高く張り、ヒヤリハットを感じた場面を逃さず、直ちに対策・改善祖講じるよう努めたい。</p>

6. 学校関係者の評価

<神田小学校長>

コロナ禍3年目を迎え、今年度も厳しい学校運営を強いられた1年でした。特にオミクロン株の流行で子どもたちへの感染が急激に拡大し、厳しい状況のなかで子どもたち一人一人が伸び伸びと教育活動に打ち込めるように知恵を絞り工夫してきました。貴園においても、感染防止対策を取りながら、幼児教育・保育の質の向上を図り、保護者や地域の方々から信頼される園づくりにご苦労されたことと思います。本年度から高知県では「幼保小の架け橋プログラム事業」に取り組んでいます。幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児と小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラムの開発や教育方法の充実や改善をめざしての取組が始まりました。本校でも、実際に子供達を担当している5歳児、1年生の担当が子どもの姿を基に語り合う「連絡会」を実施し、確実に滑らかな接続ができるよう取り組んでいます。幼稚園での学びや育ちが小学校の学習にどのようにつながっているのかを園と小学校の先生と一緒に確認していくことで、5歳児が安心して期待感をもって就学に向かうことができることと思います。これからも協力よろしく願います。

<令和4年度後援会長>

杉の子幼稚園に3人の子供達を通わせ今年で8年目になります。先生方はとても明るく元気で、優しく接してくれます。その楽しく明るい雰囲気、子どもたちだけでなく保護者にまで反映し「笑顔いっぱい杉の子幼稚園」が実現しています。園児数が200名を超える大きな園ですが、先生方は受け持ったクラスだけではなく全園児のことをしっかりと見て声をかけてくれています。どの先生も子どものことを知ってもらえているところが、安心して預けられ信頼できるところだと思います。また、広い園庭で思いっきり駆け回ったり遊んだり、体を動かす時間をたっぷり取っているのも素晴らしいことだと思います。杉の子ハウスや遊具がたくさんあるのも魅力です。四季折々の体験活動や行事も充実していて、年長組になるとよさこい鳴子踊りや鼓笛隊に挑戦します。キリッと引き締まった表情で自信に満ち溢れている我が子を見ると、3年間の成長が良く分かりとてもうれしく思います。幼児期にこのような素晴らしい経験ができた子どもたちは、きっと小学校でも「強く賢くたくましく」自分を信じて力いっぱい活躍できることと思います。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

<評議員/株式会社メディア・エーシー取締役会長>

杉の子幼稚園の自己評価報告書を拝見しました。教育目標に沿った様々な取り組みを通して、一人一人の幼児を大切にされた質の高い教育保育活動が展開されていることに感銘を受けました。全教職員で全園児を育てていると感じることがたくさんあり、積み上げてきた歴史と伝統の良さだと思います。全教職員のかたい団結とたゆまぬ歩みに心から敬意と感謝を申し上げます。昨年9月に3歳の女の子が登園後バスから降るされないまま5時間にわたって車内に置き去りにされ、死亡するという痛ましい事故が起こり、園の安全管理体制が問われました。幼稚園の最も大切な使命は、子どもたちの命を守ることです。しかしながら、幼稚園の日常のなかにも危険はいろんな場面で潜んでいます。大切なお子様の命を預かる以上、その命が危険にさらされるような事件や事故は、絶対にあってはなりません。「安全管理体制の強化」の自己評価が「B」となっています。努力されていることは承知していますが、更に子どもの安全を100%保障する徹底した安全管理体制の構築を望みます。

<あたご幼稚園園長>

振り返りのまとめを見せていただき、随所に、『しっかりと保育を語り合ってきた』足跡を、感じる事ができました。『語る』という行為は、保育に従事する者にとって、本当に貴重で尊いものであると、常々思っております。語り合うから、共有でき深い理解に繋がります。やがてそれは、大切な方向性となります。先生方が共通した確かな方向性を持つことが、それぞれの場面にどの先生が関わっても大切な事項をはずさない保育となります。それそのものが園の重要な軸であると考えます。それがとてもよいスパイラルで稼働されているからこそ、「コロナ禍の厳しい環境でも、慌てることなく子どもの育ちを保障すること」に繋がったと理解しました。コロナ禍のみならず、不適切保育やバスの置き去り事故など、次々とやってくる強い向かい風の中、しっかりと歩みを進めてこられた様子が分かりました。これが起動しているからこそ、『杉の子幼稚園に関わる全ての人が笑顔になる幼稚園』を目指すことができると思えました。日々の素晴らしい実践お疲れさまでした。